

いわき震災伝承みらい館・いわき市文化センター連携協力事業

あんばさまのまち展

入場無料

海の神様の宿るまち。日々の暮らしと再生への希望



期間

令和4年

8月5日(金)～10月30日(日)

9:00～17:00 ※休館日 第3日曜日

場所

いわき市文化センター

〒970-8026 いわき市平字堂根町1-4

あんばさまのまち展

東日本大震災による津波によって大きな被害を受けた豊間・薄磯地区の移り変わりを、産業、信仰、伝統、町の風景などの写真パネルや映像と、当時のまちの地図とともに振り返ります。

○ 展示期間・場所

令和4年8月5日(金)～10月30日(日)
文化センター1階 学びのサロン

特別プログラム

『若者と震災伝承を考える』

- ① 大学生による震災講話実演
- ② パネルディスカッション

○ 日時・場所

令和4年9月24日(土) 14:00～16:00
文化センター1階 大講義室

※聴講自由(無料)。但し、定員(40名)に達し次第、入場を制限させていただきます。

期間中、いわき市文化センターといわき震災伝承みらい館の連携のもと、小学生を対象とした防災教育として、「平第二うめか土曜学習」を実施することとしています。

お問合せ先

いわき震災伝承みらい館

TEL 0246-38-4894

あんばさまのまち

遠い昔、安房の国（あわのくに）から勧請したと伝えられる安波大杉大明神は、地区の海岸近く、小高い場所に祀られ、豊漁と海上安全を願う漁民の信仰を集めてきた。

境内の杉の枝が風に揺れる様に豊漁を占い、正月になれば、小遣い稼ぎの子供らが家々を回って、あんばさまの唄をうたって囃し立てた。また、大漁続きで疲れた船方衆は、夜のうちにこっそりご神体を港に運び入れ、船具とともに積み上げて祀り、船止めの要求の印とした。

漁村の人々の素朴な信仰と絆を糧としたあんばさまは、ここが鄙びた寒村であった昔から、北洋漁業で沸き立った日々を、高度成長期に海水浴ブームで栄えた時期を、辛うじて生き抜いてきた。2011年3月11日、予想だにしない巨大な津波により、人々が連綿と守り続けた暮らしと地域の絆が蹂躪されつくしたこの場所で、「あんばさまのまち」の鮮やかな復活が待たれている。



イベント詳細情報

あんばさまのまち展

パネル展示

漁民のまちの人々に愛され、敬われ、恐れられた「あんばさま」は、震災を越えた今も、同じ場所でまちの移り変わりを見つめています。今回は、豊間・薄磯地区のまちの風景を、信仰、産業、伝統等に目し、展示します。



また、11年前の平成23(2011)年に起こった東日本大震災について振り返り、今後起こりうる災害について考えるきっかけとするため、発災当時の写真を展示します。

映像放映

東日本大震災を経験した人々の体験や教訓をまとめた映像や、東日本大震災からの復旧・復興の様子を示す映像等を放映します。

特別プログラム

① 大学生による震災講話実演

医療系学生としての被災地への関わり方や、子供への震災伝承の在り方について、学生自身の言葉で語ります。

② パネルディスカッション

震災後11年を経て、被災地や住民の置かれている状況が多様化するとともに、震災を知らない世代が増加する中、学生の災害への関わり方を踏まえ、若者の視点から伝承活動について考えます。

テーマ

『これからの東日本大震災の伝承活動の在り方について』

ファシリテーター

鎌田 真理子 氏（医療創生大学 心理学部 教授）

パネラー

震災語り部（いわき語り部の会）
大学生、大学教員
被災地域住民 など

